

ラテン音楽を演奏する際のポイント

中南米は、先住民の音楽と西洋から伝来した音楽、さらにアフリカ系の音楽が融合し、各地域ごとに実に様々な音楽ジャンルが発展してきた、まさに音楽の宝庫というべき場所です。また、即興演奏や今も息づく踊りの文化など、世界の中でフォルクローレ文化が最も多く残っている場所でもあります。多様な文化的背景を持ったリズムやメロディー、西洋のバロックやそれ以前の音楽から受け継がれたハーモニーなど、さまざまな側面を持つ南米のフォルクローレ、その生き生きとした音楽世界に親しむために大切なことをまとめてみました。



7つのポイント

まずは曲種を覚える！

曲種とは、「サンバ」や「ミロンガ」、「ルンバ」など、曲の種類、スタイルのことで、その多くは同時に踊りの名前でもあります。それぞれの曲種には、特徴的なリズムや、テンポ、形式などがあります。

少なくとも覚えたい3項目

1. 基本となるリズムパターン（コードパート）

曲の伴奏の核となるリズムパターンです。特にギターには各曲種に対応したリズム奏法があります。

2. ベースパートの基本的なリズムパターン

3. パーカッションパートの基本的なリズムパターン

※ テンポとノリ（アクセントの位置、フィールなど）の感じまで掴みましょう。

※ 各パターンには、曲の句切れなどで使うキメのパターンがある場合がある場合が多いです。あわせて覚えましょう。

コード進行を覚える！

ラテンの曲は曲の部分（イントロ部分やAメロ、Bメロなど）ごとに、あるコード進行があり、それらを繰り返しながら曲を作っています。コード進行は曲のエッセンスというべきもの（メロディーやベースはコードから導き出されます）なので、必ず覚えましょう。覚える際には、各キー（調）ごとによく出てくるコードを理解すると便利です。

メロディーの装飾法を身に付ける！

ラテンの楽曲にはもちろん定番のメロディー（テーマ）がありますが、実際はそれをそのまま演奏するのではなく様々な装飾、変化を加えて演奏します。装飾は毎度の演奏で即興的に変えるのが普通です。メロディーを装飾する様々な方法を身に付け、アドリブで様々な変化を繰り出せるようにしましょう。

特殊奏法をマスターする！

チャスキード（ギターのカッティングの一種）など、各楽器で特殊な音を出す様々な技が発展しているのも、フォルクローレならではの長です。いろいろなストロークテクニックとともに技を習得して、曲の彩を増やしましょう。

コードをアレンジする！

はじめのうちは単純なコードだけでよいですが、なれてきたらコードの違った押さえ方を使ったり、セブンスなどの付加音を使うことで増やしていくとさまざまな味を出せるようになります。コードの響きをアレンジするさまざまな方法をマスターしていきましょう。

楽譜から離れる！

楽譜はあくまで参考です。本来は、楽譜はありません。はじめから楽譜なしで覚えるか、ある程度曲を覚えたら楽譜を離れて、顔をあげて周りに目を配りながら演奏しましょう。

曲を覚えるコツ	
1	まずは、メロディーがだいたい歌えるようにする。
2	コードを覚える：そのキーに出てくる代表的なコードをチェックして、メロディーを歌いながらコードを付けて覚えていきます。
3	メロディーを覚える：そのキーのスケール（音階）を確認してから、メロディー音を探りだし、メロディーを楽器で弾けるようにします。

いろいろな演奏を聴く！

ラテン音楽を演奏する際のノウハウにはとても多様で、理論に縛られない自由さ、言葉では説明できない感覚や、奏者ごとの個性など、生きた音楽ならではの豊かさがあります。様々なミュージシャンの演奏を聴いて、リズムの感じや、ベースやメロディーの弾き方、構成の工夫などを参考にしてみましょう。同じ曲をの違うグループの演奏を聴き比べてみるのもおもしろいです。またインターネット等で探す場合は、ローマ字のタイトルで検索するとより本格的な演奏が見つかります。



